

NMO OfficeLetter

京都で活発 オープンイノベーション！

9月16日金曜日の京都新聞朝刊によれば、最近京都の大手企業でオープンイノベーションの動きが一層活発になっているという。村田製作所、日本電産、京セラ、島津製作所など、名だたる大手企業がこぞってオープンイノベーションに力を入れている。以前から、産官学連携とい

うキーワードなどで言われていた異業種間連携などの流れだ。最近では、それを公的支援機関がバックアップし、大手企業とスタートアップ企業や大学の研究機関などが連携し、共同研究を行ない、製品開発に積極的に利用、活用する動きが活発になっている。異なる分野で互いに育ててきた技術や知識の融合が、新たな発想に基づく製品やサービスの開発のスピードを加速する。それぞれの企業が、協同で作業する場所を提供する動きも活発になっている。



KOINの風景

＜解説＞京都経済センターの3階にはKOINという出会いを提供する場所がある。KOINはKyoto Open Innovation Network の頭文字をとった名称。新しい一歩を踏み出す人のために、無料で場所の提供をしている。ビジネスの発端は、人と人との出会いから始まるという発想の下、京都の知恵と技術が融合して、新しいビジネスを生み出すベースになることを目的に、京都経済センターがオープンした時から開店した。また、最近では京都信用金庫が河原町御池の旧河原町支店の跡地に新しく「クエスチョンビル」を建設し、多くのスペースでスタートアップを目指す若者たち

KICK外観



新たなイノベーションの創出へ
けいはんなオープンイノベーションセンター
Keihanna Open Innovation Center @ Kyoto
「けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）」は、
公益財団法人京都産業21が京都市と連携し、
健康・医療、エネルギー・ICT、農業、文化・教育などの
先進的な研究開発を推進するオープンイノベーション拠点です。

に活用されている。さらに、けいはんな学研都市のKICK(けいはんなオープンイノベーションセンター)、KRP(京都リサーチパーク)などの公的支援機関も後方支援をする場の提供をしている。もともと京都はベンチャー企業が多く育った土壌がある。明治の中頃に創業した島津製作所を皮切りに、その後多くの世界的な企業が勃興した。しかし、最近では多くのベンチャー企業やスタートアップ企業が東京周辺の首都圏に集まり、京都や関西の地盤沈下が叫ばれて久しい。京都市も目利きAランク企業認定制度というベンチャー企業の認定制度を京都高度技術研究所が行っているが、

クエスチョンビル



ユニコーンのような企業が育ってこない。規模の大小より、技術的に尖った特徴のある企業が多く輩出されるには、異業種同士の協業が大事だ。技術の変化が速い現代においては、企業や大学などの垣根を乗り越えて、多くの異能を持った人材が交流することで、新しいビジネスが生まれる。ここ30年地元京都から飛び立ったベンチャー企業があまりない。可能性を秘めたスタートアップは多くあるが、まだ水面下の事業活動になっている。産官学に金融機関を加えた連携を密にすれば、今後の京都経済の発展の礎になるはずだ。

